

SMDに対する リソース指向アーキテクチャ設計法の提案

南山大学 情報理工学部 ソフトウェア工学科

2008MI160 中根拓也

2009SE026 福田雄介

2009SE093 岩下 翔

指導教員 青山 幹雄

目次

- 前回のおさらいと今回の動機
- 前回の回答
- シナリオ(追記)
- 実装について
- 今後の課題
- 参考文献

前回のおさらいと今回の動機

前回のおさらい

- 提案シナリオの考察
 - 提案アーキテクチャに基づいたシナリオを検討
- RDFファイル探索プログラムの実装計画
 - 提案したアーキテクチャの, SPARQLとRDFDBの箇所を実装
 - ビジネス向けのRDFDBを作成(予定)
 - クライアントの必要な情報をRDFDBから取得するプログラムを作成

今回の動機

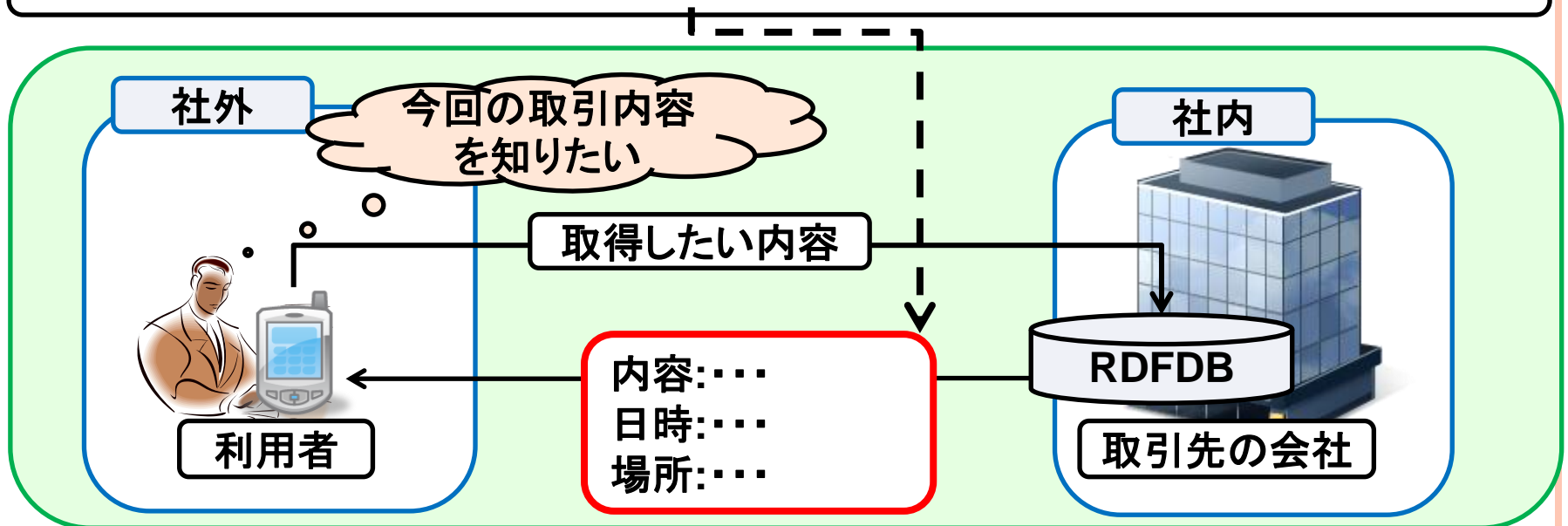
- 提案シナリオの追記
 - 音声, 画像等を取得したい場合のシナリオを考察
- 実装について

前回の回答

●送信データ量を削減しても、クライアントが「取りに行く」動作が増えたら、遅延する？

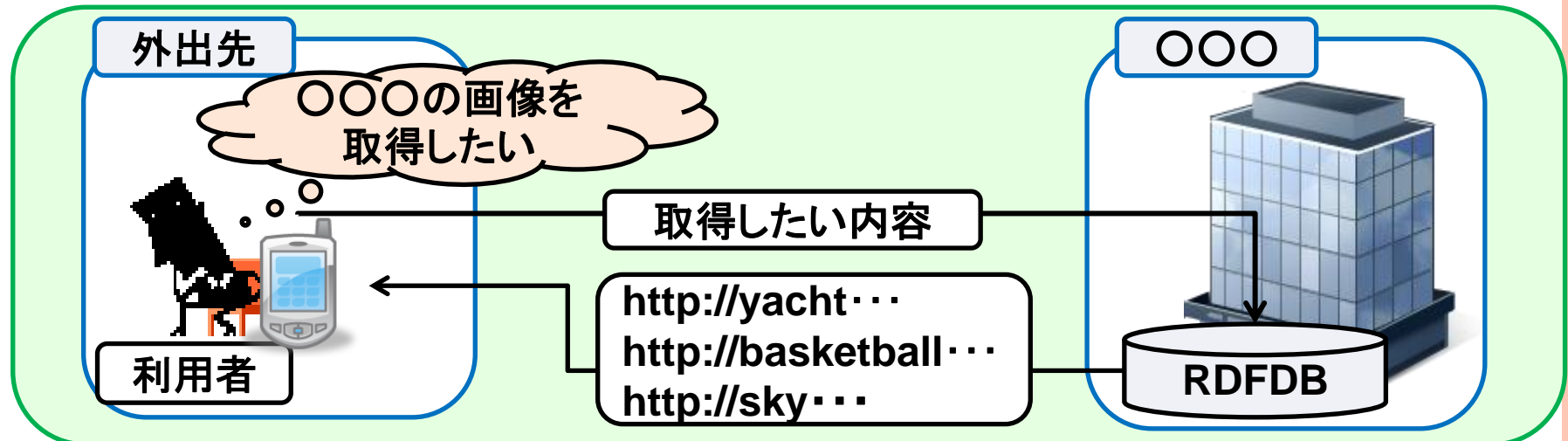
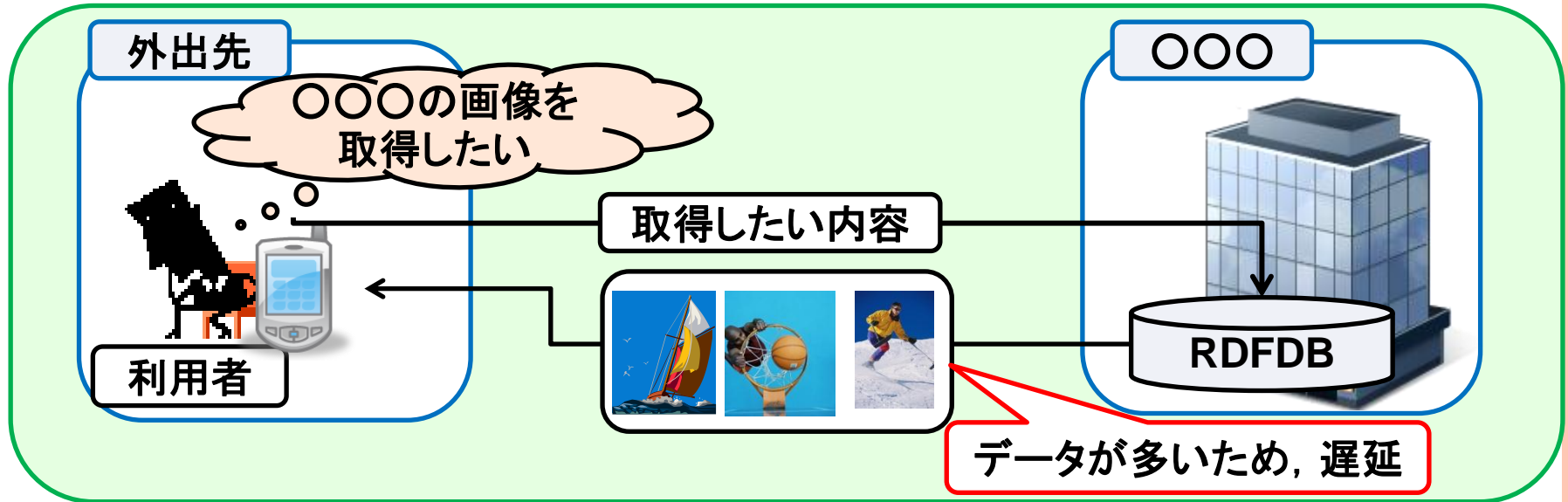
- 画像、動画等を大量に取得するよりも、URIを用いてアクセスした方が「取りに行く」遅延を補うのに有効
- 一回の通信時間の短縮により、ネットワークの不安定さからくる影響を抑制

●抽出した内容見る事のできるWebサービスを作成するべきでは？



シナリオ(URI)

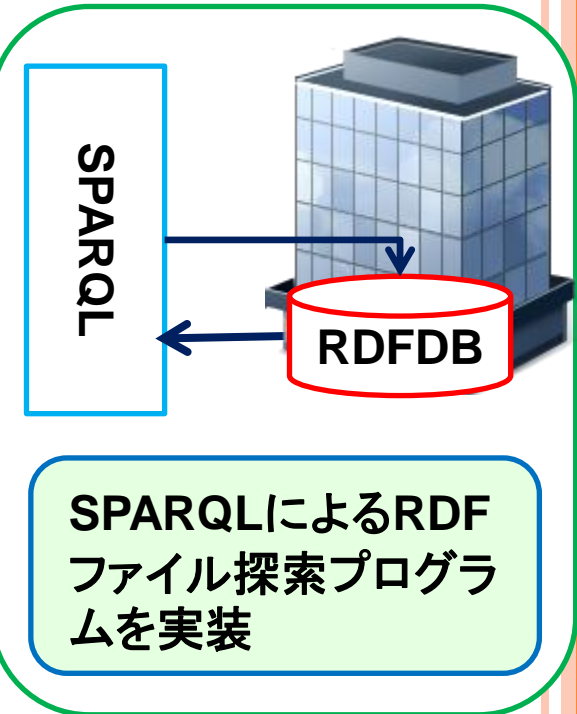
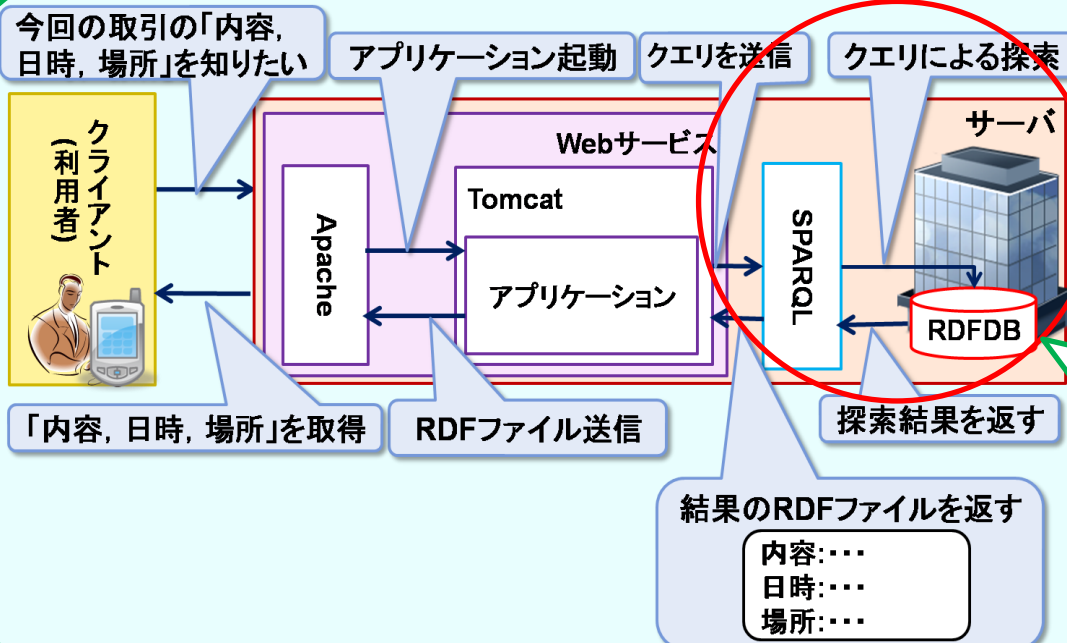
- 外出先で画像、音声、動画等を取得したい場合



- ✓ データ量の大きいものは「URI」で参照する事により、送信データ量を削減

実装について

提案アーキテクチャ



- 実装しているプログラム
 - RDFファイル探索プログラム
 - Sesame Java APIの利用

今後の課題

- 実装を進める
- シナリオに沿ったRDFDBの作成
- 実装したSPARQLプログラムによるRDFDBの探索テスト

参考文献

- セマンティックWebプログラミング

著者 : Toby Segaran, Colin Evans, Jamie Taylor

SMDに対する リソース指向アーキテクチャ設計法の提案

南山大学 情報理工学部 ソフトウェア工学科

2008MI160 中根拓也

2009SE026 福田雄介

2009SE093 岩下 翔

指導教員 青山 幹雄

END